

# 民主島根

2020年  
**8.2**  
第1365号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 豪雨災害 2年前の地域でまた 被災者の復旧支援 一刻も早く

### 大平前衆議員、向瀬西部地区委員長らが被害聞き取り

日本共産党の大平喜信前衆議員（衆院中国ブロック比例）は7月20、21の両日、豪雨で江の川が氾濫（14日）し、浸水した江津市、川本、美郷の両町を訪れ、要望などを聞き取りました。

向瀬慎一西部地区委員長（衆院島根2区）、尾村利成、大國陽介の両県議、江津市議団、中原保彦・美郷町議、山口節雄・前川本町議が同行しました。いずれも2年前の西日本豪雨の被災地域が今回も被災しました。

#### ■美郷町浜原地域

江の川そばにある採石工場は約1畝70坪浸水。復旧にあたっていた男性（46）は「昔は川底がもつと下だった。長らく浚渫されず、年々、

土砂が溜まり浸かった。土砂を取ってもらえば違ってくると思う」と話しました。大平氏は「浚渫ならすぐできる」と述べ、2年前に氾濫した岡山県倉敷市真備町の川が浚渫されたことを紹介しました。

#### ■江津市桜江町

江の川の堤防がない地域で、自宅が1畝以上浸水

### 無堤防地区の解消を 山下・江津市長が要望

21日には、江津市の山下修市長と懇談し、被災者から聞き取った要望などを伝えました。地元の坪内涼二・自民党県議も同席しました。

江津市では、床上浸水36戸、床下浸水26戸、非住家25戸の計87戸で

した男性（80）は「この家を建ててから8、9回は水に浸かっている」と語り、移転も考える一方、「田や畑もあり、遠くには行かん」と話しました。3年前に東京から家族とUターンした男性（44）も、2年前の西日本豪雨で自宅が全壊。今回も床上浸水し「堤防があったら」と整備を求めました。

被害が発生しました。

山下市長は、市内を流れる江の川の65kmのうち、堤防の未整備区域は4割もあると指摘。2年で再び浸水し、「住民はショックを受けています。治水関係予算をしっかりと確保し、少しでも早く無堤防地区の

解消をお願いしたい」と述べました。大平氏は「国や県に急ぐよう求めていきます」と応えました。

### 「2年前修理した機械が浸かった」

#### 川本町 被災翌日 向瀬氏、尾村・大國県議が調査

日本共産党の向瀬慎一西部地区委員長、尾村利成、大國陽介両県議は被災翌日の7月15日、川本町などの被災状況の調査に入りました。

川本町では、野坂一弥町長が応対し、「2年前に被災した地域が今回も被災した。精神的な面も含めて寄り添った支援を行って



川本町で家具製造を営む有限会社「創修」の大谷美希社長（46）は、「コロナの影響もあるが、仕事が出始めたところだったと語り、「2年前に浸水して修理した機械が今回も浸かった。2度目の修理は難しく更新に7千万円必要。これから前回の借入金返済が始まるが、何とか再起したい」と話しました。（写真）

向瀬氏は「早急な復旧と被災者支援を国や県へ求めたい」と答えました。



作業場が浸水した建設業者に話を聞く（江津市桜江町川越地区）



山下修・江津市長（右手前から2人目）と意見交換（江津市役所）

日本共産党東部地区委員会は7月22日夜、総選挙と地区内で来年にかけてたたかわれる地方選の勝利をめざした「党と後援会の決起集会」を松江市で開きました。

### 総選挙・地方選での勝利を

岩田剛地区委員長は「特別月間」成功に向けて「党機関や地方議員が援助し、結びついた人を誘った記念講演の視聴会や集いの計画を」と強調。「入党の働きかけを強め、

**鼓動**  
♪薄紫のやまなみは 磯  
るか希望の雲を呼び 磯  
風清き八十里 みどりの  
海に春立てば... 三十数年  
前、大東町の妻の里に泊まった  
時、早朝、有線放送から流れて  
くる軽快でさわやかなメロディ  
で目覚めた。後に、これが島  
根県民歌だと知った▼1951  
年に、公募で選ばれた米山治作  
詞の歌詞に、今放映中の朝ドラ  
「エール」の主人公・古閑裕而  
が作曲し、創唱レコード盤は、  
当時、「青い山脈」などで人気絶  
頂の藤山一郎が吹きこんでい  
る。超一流の作曲家と歌手にふ  
さわしいすばらしい歌詞は、長  
い海岸線と広大な山野、そして  
悠久の歴史を有する県土を見事  
に謳い上げています▼♪山に幸あ  
り山を踏め 海に幸あり波に乗  
れ 玉なす汗を陽にあびて 働  
くところ日本の 行手かざやく  
光あり あゝゆたかなるわが島  
根♪ この二番は、働く県民に  
光を当て産業振興の願いが込め  
られており、文字どおり県民歌  
にふさわしい歌詞となっている  
▼半世紀前、島根大学に入学し  
たことを契機にその後、島根県  
民となった。縁あって県内で就  
職しずいぶん県内を駆け回っ  
てきた。島根県はどこに行っ  
ても自然を満喫できる。そして自  
然とともに歴史が織りなす風土  
は、どこでも島根ならではの奥  
ゆかしい風情がある▼このすば  
らしい風土を書き残したいと、  
このほど「新しまね風土記 島  
根路を行く」を自前印刷で出版  
した。県外の人にも送ったところ  
ろ「島根には行ったことがなか  
ったが、コロナがおさまったら  
ぜひ訪れたい気持ちでいっぱい  
になった」「各市町村をくまなく  
踏破され、文章の行間には「島  
根愛」があふれている」などの  
感想が寄せられた。（吉）